



東八森駅付近 遠景の山は八沢峰 所有者:堀内常雄氏

八峰町発展にかかわった八森油田

子どものころ大人から聞かされた話ですが、昭和10年ごろ江口輯治という人がいて、磯村付近で石油の井戸を掘ったが失敗し、自宅に一人残り縁側で昼寝をしていました。夢の中で、なんと自宅の庭に石油が噴出したのを見たのだそうです。江口氏ははつと目を覚まし、発奮して再度試掘を始めました。そして目名湯海岸で見事に八森油田第1号油井を掘り当てたということです。

その後、油井はどんどん増え、昭和40年まで掘り出した石油の総量は125、166klで、ドラム缶で約69万本分もあったということです。石油と一緒にガスや地下水も出たのですから、ぜんぶ合わせると大変な量の液体や気体が地中から出たことになりました。

これらの物質は一体地下のどんなところに隠れていたのでしょうか？八森油田で65号井と呼ばれた井戸が現在の秋田アルス工場北側に掘られました。その井戸は2、000mまで掘り進められ、地表からそこまでの地層の一部を掘り出して詳しく調べられました。驚いたことに泥岩などの地層に挟まれるような形で、350mの厚さで素波里安山岩の岩体があったのです。石油は主にこの岩体からくみ上げられていたことが判りました。

素波里安山岩はもともと、藤里町の素波里付近で研究された安山岩で、その地名をとって名付けられた名前です。研究が進むにつれて八森地区にも分布していることがあきらかになりました。油田風景を撮った写真を見ると後方にそびえる山々はほとんどこの岩体からできていますし、近くでは薬師山や母谷山、海岸部では泊海岸や椿海岸、雄島なども素波里安山岩からできています。



素波里安山岩の溶岩

この安山岩は海底に噴出した火山によってできたことが分かっています。岩石をよくみると溶岩や火山灰、溶岩の破片が火山灰の中に入り混じった角礫凝灰岩（角ばった石と火山灰からできている岩）などが海底に積み重なって出来たものと考えられます。溶岩の破片をよく観察するとたくさん的小穴（溶岩の写真）があることがわかります。この中に石油が溜まったものでしょう。

素波里安山岩があるのに石油が出来ない地域では、この穴に地下水が溜まっているらしいのです。八森中学校東側に流れている沢水や、お酒「白瀑」に使われている水は素波里安山岩に蓄えられた地下水が地表に湧き出てきたものようです。

このように素波里安山岩は地域の発展に深くかわつていて、私たちはその恩恵をたくさんいただいていたことになります。

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒018-2612

会長 工藤 英美

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427